

## 令和元年度

# 「農」の機能発揮支援アドバイザー派遣事業（実施結果）

（この事業は、令和元年度都市農業機能発揮支援事業（農林水産省）を活用して実施しています。）

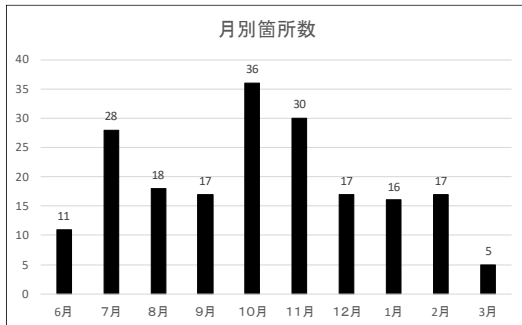
### 目次

1. 令和元年度実施概況	1
2. 過去7年間の事業推移	2
3. 派遣箇所の分析	3
4. 課題と解決方法等	25

### 1. 令和元年度実施概況

全国の農家、都市住民、企業、NPO等の依頼に応じ、都市農業の多様な機能を活用した取組みを支援するため、テーマに応じた専門家をアドバイザーとして派遣した。	
派遣手続き終了箇所数	207箇所
キャンセル箇所数	12箇所（内、コロナウィルス関係7箇所） <small>（注）</small>
派遣実施箇所数	195箇所
派遣アドバイザー数	210名
参加者数	5,043名
内、農業者	631名
この他に、市民参加型公開イベント（東京都農業祭等）で23,300名	

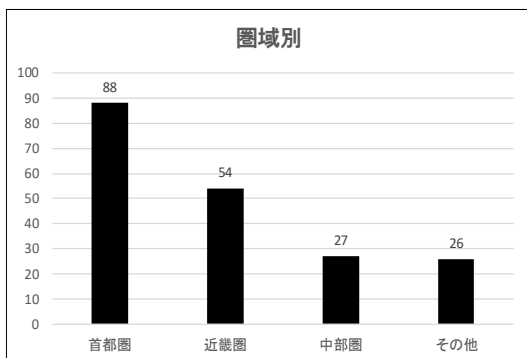
#### ①月別派遣箇所数



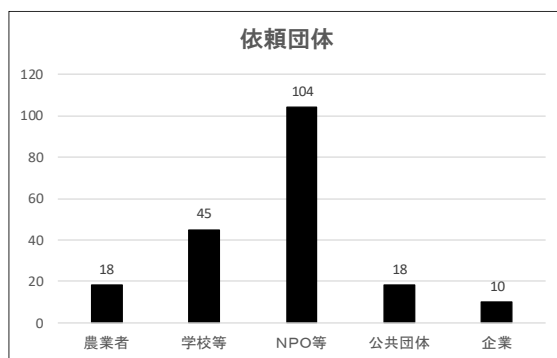
#### （1期～3期の箇所配分）

	1期	2期	3期	合計
	6月～9月	10月～12月	1月～3月	
予定箇所数	70	90	40	200
派遣手続済箇所数	75	87	45	207
キャンセル箇所数	1	4	7	12
実施箇所数	74	83	38	195

#### ②圏域別派遣箇所数

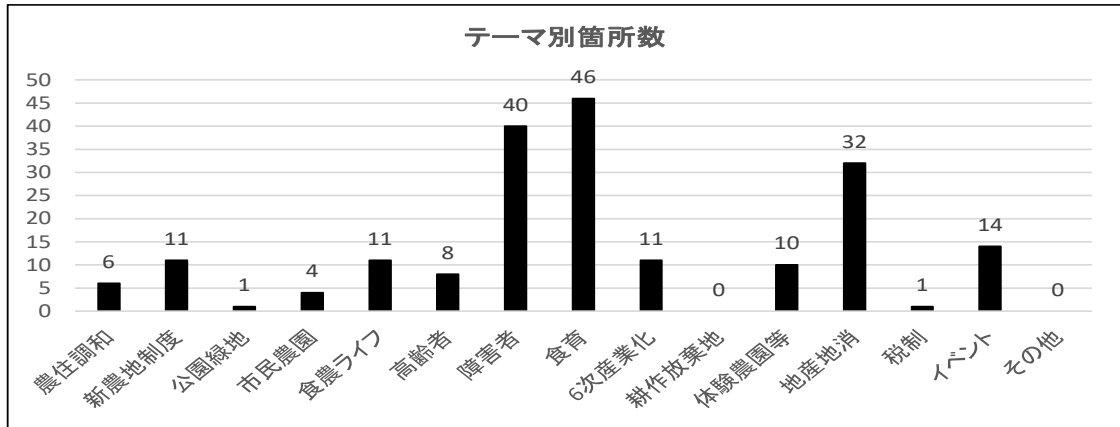


#### ④依頼団体別派遣地区数



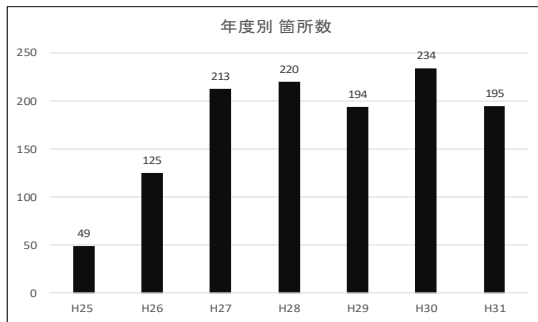
（NPO等の内、福祉事業所35）

⑤テーマ別派遣箇所数、参加者数

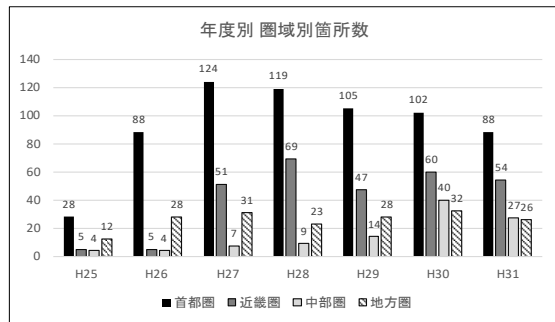


2. 過去7年間の事業推移

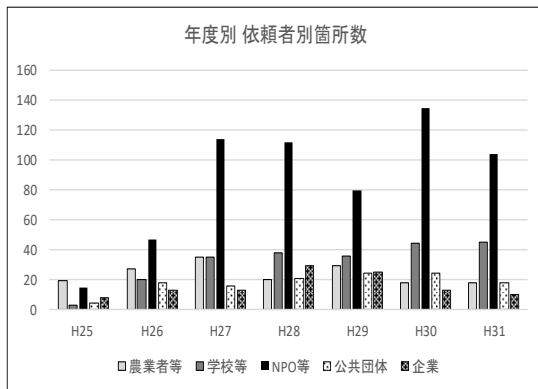
①年度別箇所数



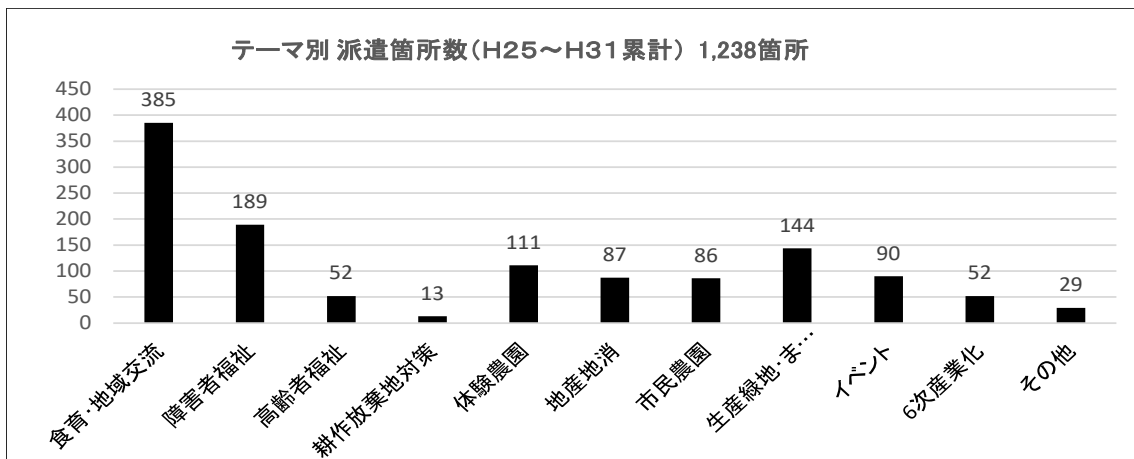
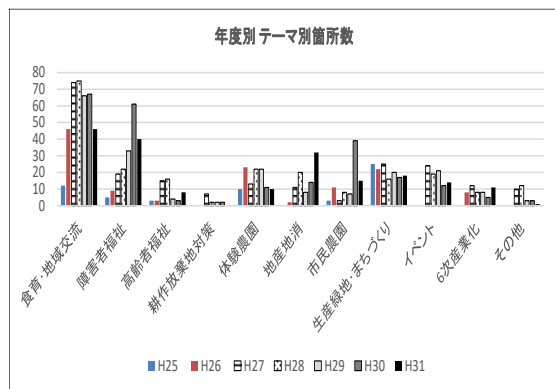
②年度別圏域別箇所数



③年度別依頼者別箇所数



④年度別テーマ別箇所数



### 3. 派遣箇所の分析

#### (1) 派遣箇所一覧

次の表は、195 箇所の派遣先を大分類、小分類毎に整理した一覧表である。

大分類	小分類	派遣先
(1) まちづくり 18 件	①農住調和のまちづくり 6 件 [地区計画等による地域におけるまちづくり計画・事業（農家の資産活用を含む）、農の風景育成、防災協力農地、環境循環]	J A 兵庫六甲（宝塚資産管理センター）、船橋市経済部農水産課、伊丹市農業政策課、豊田市 T 地区まちづくり協議会、株式会社ジエイエーエムティーハウス、区画整理促進機構
	②新しい都市農地制度 11 件 [制度の普及・啓発、地方計画等の策定、都市農地制度]	岐南町農業委員会、あさか野農業協同組合、未来都市政策研究会、都市計画家協会、滋賀県農政課（農政）、楽農クラブ、津島食農プラットフォームみんなのプロジェクト、尼崎市園田地区農会長会、兵庫県楽農生活室、尼崎の農を考える会、岐南町
	③公園と緑 1 件 [緑の基本計画、農業公園、認定市民緑地等]	松戸市（みどりと花の課）
(2) 市民利用 15 件	④市民農園 4 件 [農地を利用した市民農園、福祉農園]	新居浜市自然農園を育てる会、千葉県市民農園協会、農楽にーに一会、楽農クラブ
	⑤コミュニティ農園・食農ライフ 11 件 [コミュニティ活動としての小菜園（宅地、屋上、空家周辺等を含む）]	すまいるファーム、シェア菜園倶楽部、フードエデュケーションクラブ 知多、小桜企画、徳林寺醤油部、くずはシェアファーム、東京都夢の島熱帯植物館、NPO 法人武蔵野農業ふれあい村
(3) 教育・福祉 94 件	⑥高齢者・生きがいつくり 8 件 [ティイサービス、園芸療法、高齢者雇用、農園付高齢者施設]	すこやかティイサービス、滋賀県農政課（企画）、効イマジ、松下政経塾、園芸療法研究会西日本、千葉県市民農園協会、みやまえ農の応援隊
	⑦障がい者福祉等 40 件 [就労支援、雇用、特別支援学校、生活支援、学童保育等]	NPO 法人兵庫セルフセンター、花の木冷菓堂（白鳩会）、花の木大豆工房（白鳩会）、松戸市障害福祉課、上越ワーキングネットワーク、NPO 法人 ASU の会 まちかどステーション八百萬屋、障がい者支援施設むもん、株式会社康臨丸、特定非営利活動法人サークルほたる、社会福祉法人はなさきむら（兵庫セルフセンター）、社会福祉法人ゆたか会（兵庫セルフセンター）、株式会社トリフィット燦、ふじっこ青空ファーム、特定非営利活動法人 UNE、株式会社サダガ介護、ひろせ福祉会、福祉ネット「川の

		家」、MotherNess Publishing、特定非営利活動法人 CCV、社会福祉法人祥和会 わかとり作業所、LMO 実行委員会、鳥取県障害者就労事業振興センター、高田圃場、社会福祉法人フォーレスト八尾会
	<p>⑧学校教育等の食育 46 件</p> <p>[学校教育、社会教育、カルチャースクール等(食、農について教えることを主とした取組)]</p>	足立区立保木間小学校、東京都市大学附属小学校、足立区立栗原北小学校、足立区立千寿双葉小学校、新宿区立柏木小学校、小金井市立東小学校、あ足立区立西伊興小学校、北区立稲付中学校、相川保育園、新宿区立西新宿小学校、練馬区立光が丘秋の陽小学校、難波愛の園幼稚園、昭島市立拝島第二小学校、東京都立板橋特別支援学校、江東区立第五砂町小学校、東京都立あきる野学園、八王子市立みなみ野小学校、キングダムキッズ 藤井寺、男の子育てサークル DADDY、中萩中学校 PTA、泉川学校運営協議会(泉川小学校)、荒川区立尾久宮前小学校、千塚こども園、園芸福祉首都圏ネット、今福南保育園、江東区立第二亀戸小学校、にじいろ保育園上石神井、新宿区立環境学習情報センター、東京農工大 MOT サロン
(4) 都市農業 53 件	<p>⑨ 6 次産業化 11 件</p> <p>[加工・流通等による付加価値 UP、収益 UP]</p>	Bridge Wellness 株式会社、和歌山福の実プロジェクト実行委員会、大阪木津卸売市場市場協会、彩誉会、暮らしの市実行委員会(イニニックビレッジ)、市川市農業士等協会、奈良市市民部東部出張所
	<p>⑩耕作放棄地対策 [該当なし]</p>	
	<p>⑪入園方式等の農業経営 10 件</p> <p>[農家、農業法人の経営する体験農園、CSA 等]</p>	静岡県農業ビジネス課、モリノコトモ舎、ハンズビレッジファーム、J A マインズ 本店地域振興部、春日部農林振興センター
	<p>⑫地産地消 32 件</p> <p>[食の安全、伝統野菜普及、マルシェ等の地元農作物消費促進]</p>	江戸美学研究会、ケーシヨリサーチ株式会社、森川喜市商店 浦和、東邦け株式会社(あべのハルカスファーム)、江戸ソバ協会、東京すし和食調理専門学校。桜美林大学片山ゼミ、東京都立八王子東高等学校、こがみ女子、プレーン(うおこう寄席)、すい都大阪伝統食まつり実行委員会連続講座、鎌倉大根未来研究クラブ、東京ガス株式会社都市エネルギー企画部、都庁大阪天王寺、大阪府南河内農と緑の総合事務所(葱サミツ

		ト)、株式会社東京ビデオセンター、なまぐさの会、NPO コミュニティスクール・まちデザイン、PARITALY(産業フェスタ)、NPO 法人ゆうきハートネット
(5) 税制その他 15 件	⑬税制 1 件 [関連する税制]	J A 事業センター
	⑭農業祭等のイベント 14 件 [農業に関する大規模イベント等]	大阪ぐりぐりマルシェ実行委員会、北摂里山文化保存会、World seed、HappySpira 実行委員会、東京都農業祭実行委員会、STEP HARVEST 実行委員会、浪速お化髪会、NPO 法人子ども食堂ファンクラブ
	⑮その他	
合計		

## (2) 地域での取組・アドバイス内容の類型化

以下、195 箇所について、小分類ごとに、取組とそれに対するアドバイスの内容により類型化を行うと共に、箇所での取組等の内容、課題を考察する。

### 1) 農住調和のまちづくり

#### ●まちづくり協議会等へのアドバイス

##### ①JA 兵庫六甲（宝塚資産管理センター）

A 地区の区画整理事業（約 10 ヘクタール）を活用した農住調和のまちづくり  
農家の大半は納税猶予、営農継続希望

##### ②豊田市 T 地区まちづくり協議会

従来型の区画整理でなく、都市農業・都市農地を巡る状況を踏まえた新しい農住調和型の組合区画整理を模索

#### ●まちづくり事業者(団体)へのアドバイス

##### ①公益財団法人区画整理促進機構民間事業者研究会

ゼネコン、デベロッパー、コンサルタント等区画整理事業に携わる民間企業の研究会。  
都市農業・都市農地を巡る状況を踏まえた今後の区画整理等のまちづくりの方向を検討。

##### ②(株)ジェイエイアメニティハウス

神奈川県 JA グループが出資している農家賃貸住宅の管理運営会社。  
都市農業・都市農地を巡る状況を踏まえた、農地保全型サ高住等の賃貸住宅やまちづくりの方向を研究。

#### ●防災協力農地

##### ①船橋市

秋に予定している防災協力農地を利用した地域防災訓練に向けたアドバイス

##### ②伊丹市

伊丹市の防災協力農地制度創設に向けたアドバイス

### 2) 新しい都市農地制度

## ●農業委員会、JA 等での農業者・農業関係者向け講演会

### ①あさか野農協

特定都市農地指定に向けた組合員向け情報提供

### ②岐南町農業委員会

地方計画策定にあたり、農業委員の中での新しい都市農地制度の勉強会

### ③滋賀県農政課

県下の市町村での地方計画策定を進めるための市町村、JA 等関係者向け講演会  
地方都市での農地保全の研究者が講演

### ④兵庫県楽農室

県下の市町村での都市農地保全、都市農業振興の取組を進めるための講演会  
新しい都市農地制度と各地の事例を紹介

### ⑤尼崎市園田地区農会長会

JA 兵庫六甲園田駅前支店主催の農家向け説明会（生産緑地制度、税制）

## ●市民団体が開催する勉強会での新しい都市農業・農地制度の説明

### ①楽農クラブ（島本町）

地産地消・自産自消・地球にやさしいエコライフを目指す市民・農家の団体。  
新しい都市農業・農地制度をどう生かすかをテーマにした講演

### ②尼崎の農を考える会

アメリカ映画「エディブルシティ」を見たことをきっかけに3年前から活動開始した市民グループ（市議員が中心、兼業農家1名）で30㎡の空地で野菜作り。  
都市農業・都市農地制度を巡る状況について説明。

### ③未来都市政策研究会

様々な分野の実業家があつまる勉強会で新しい都市農地制度と諸外国の事例紹介

### ④日本都市計画家協会（生産緑地研究会）

生産緑地や緑・農に関する都市計画コンサルタント等の研究会で都市農地貸借円滑化法の活用方向について講演

## ●自治体等の具体的な取組へのアドバイス

### ①岐南町（岐阜県）

地方計画を策定し、生産緑地導入を計画している町担当者及びJA 担当者へのアドバイス

### ②津島食農プラットフォーム「みんパタ」（愛知県津島市）

市内の農地を借り、市民農園開設と作物の域内での流通・加工を進めようとしている市民組織（農家代表も参加）

組織の法人化、新しい制度を活用した農地貸借等のアドバイス

## 3)公園と緑

### ①松戸市（緑と花の課）

松戸市のみどりの基本計画改定に向けてのアドバイス

## 4)市民農園

## ●市民農園利用者への情報提供（自然農法、伝統野菜）

### ①新居浜市自然農園を育てる会

新居浜市自然農園は耕作放棄地等を利用して市内に39農園。

農薬や化学肥料を使わない野菜作りを目指しており、「新居浜市自然農園を育てる会」が主体となり、自然農園の運営を行っている。

そのうち、東高前農園及び舟木 C 農園の利用者を対象 NPO 大地といのちの会の吉田俊道氏の「生ごみリサイクル・菌ちゃん野菜作り」を解説・現地指導

## ②農楽ニーニー会

国分寺市内の市民農園利用者グループ。

江戸東京野菜の由来や栽培方法を説明。

このグループはその後、市民農園で亀戸大根の栽培にチャレンジ

## ●市民農園利用者団体への情報提供(開設、管理・運営)

### ①千葉市市民農園協会

会員を対象に、ミュンヘンクラインガルテン、恵庭市市民農園の経験を講義

### ②楽農クラブ(島本町)

市民農園利用者等が互いに技術を研修するグループ。

市民農園・体験農園の開設・運営の仕方を説明。

## 5)コミュニティ菜園、食農ライフ

### ●地域のママさん等の野菜作りグループへの自然農法指導

#### ①徳林寺醤油部

徳林寺は、名古屋郊外の寺院で定期的な朝市、ワンディカフェ等を開催しているが、活動の一つ「醤油部」は、手作りの醤油づくりの仲間(50人グループ)。

メンバーの畑(常滑市 1,000 m<sup>2</sup>)で手のかからない大豆づくりや麦づくり。

#### ②シェア菜園倶楽部

徳林寺のイベントボランティア等の30歳から40歳代の主婦、子供など8家族の集まり。

知多市で農家から農地(生産緑地)300 m<sup>2</sup>を借り、自然農法で野菜(大豆、小豆)づくり

#### ③フードエデュケーションクラブ知多

知多市で自然派料理教室を営むメンバーを中心にした近所の農作業好きなママ友等の集まりで、野菜・ハーブ作り、ピザパーティを楽しんでいる。

メンバーの庭50 m<sup>2</sup>を利用。玉葱、エンドウ豆、イチゴの自然栽培の指導。

#### ④すまいるファーム

名古屋市のアパートで子育て中の夫婦と妹家族で農作業を行っている。

農家から50 m<sup>2</sup>の農地を借りて安心・安全な野菜作り。

### ●農業公園での農業体験プログラム支援

#### ①くずはシティファーム(大阪府枚方市)

くずはシティファームは約2,000 m<sup>2</sup>の農地を利用して兼業農家が様々なイベント事業を行っている民間版農業公園。

初心者(家族連れ)を対象とした冬野菜管理の講習会。

#### ②江東区立夢の島公園

夢の島公園内の農園50 m<sup>2</sup>で実施されている教育イベント「森の学校」(指定管理者自主事業12回/年、小学生と同伴父兄対象)のうち2回で「江戸東京野菜を知る」として、講義、栽培、収穫、試食を実施(亀戸ダイコン、三河島菜、品川カブ、シントリ菜)。

#### ③NPO 武蔵野農業ふれあい村

杉並区成田西ふれあい農業公園の指定管理者。

農業公園では地元伝統野菜「高井戸節成胡瓜」と寺島ナスを栽培。関連プログラムで江戸東京野菜の講座を実施

## 6) 高齢者・生きがいづくり

### ●介護施設等での農作業指導

#### ①すこやかデイサービス（愛知県武豊町）

診療所（外来、訪問）を中心にした高齢者支援事業所の一部門としてのデイサービス（通所介護）で、施設内では作業をすると施設内通貨「鶴亀」通貨発行、他のサービスに充当するという仕組みを実践。

農業班は、敷地内の 500 m<sup>2</sup>の畑でムクナ豆を栽培、ムクナ豆は武豊町が推奨、自然農法にも馴染む。いずれは醸造所に持ち込み、みそ・醤油にすることも考えている。

#### ②スカイベジ

スカイベジは、サービス付き高齢者住宅のアクティビティの一つとしての野菜作りをサポートするグループ。今回アドバイスをを行ったのは「そんぼの家 S（大阪市城東区）」施設敷地内に組み立て式レイズドベッドを持ち込んでいる。

### ●「農」の効用の普及・啓発の講演

#### ①滋賀県

滋賀県の部局横断重点プロジェクト「しがの農×福ネットワーク」は、障害者や高齢者、生活保護者、子どもなどの支援活動を行っている者に広く参画を呼びかけ、農の活用により共生社会を実現しようとするプロジェクトでこれまでの農福連携に比べ包括的。キックオフイベントの基調講演。

#### ②園芸療法研究会西日本

関西における登録園芸療法士等の研究会。研究会で農福連携の状況、事例等をレクチャー

#### ③千葉県市民農園協会

千葉県市民農園協会は、市民農園コーディネーターの試験、登録を行っている団体。増加する高齢福祉ニーズに応えるための市民農園のあり方についての勉強会。

## 7) 障害者福祉等

### ●福祉事業所での工賃向上に向けた 6 次加工に関する経営企画等のアドバイス

#### ①トリフィット燦（羽曳野市）

（一財）大阪スポーツみどり財団の 100%出資子会社。財団の自主事業として就労継続支援 B 型事業を実施。（羽曳野市の農場、ハウス 4 棟、敷地面積 1,300 m<sup>2</sup>、水耕栽培、レタス、水菜、ケール、ワサビ菜）

販路開拓に向け、生産工程のマニュアル化と JGAP 採用をアドバイス

#### ②社会福祉法人祥和会わかとり作業所

米子市近接の南部町の施設（B 型と生活介護）、近所の耕作放棄地約 500 m<sup>2</sup>を借り、ハウス 1 棟を譲り受け野菜作りをしてきたが、公民館拡張に伴い町からテナント・パン屋の出店依頼を受けたのを機に野菜生産に本格的に取り組み、パンに挟み込んだサンドイッチを販売したい。経営企画をアドバイス。

#### ③社会福祉法人ひろせ福祉会工房ひろせ

福島県伊達市の B 型事業所、農作業（アスパラの生産・販売等）にも取り組んでいる。



JA ふくしま未来が推進している耕作放棄地対策としての「えごま」栽培に合わせ「えごまドレッシング」を商品化したが、更にひろせ栽培野菜を取入れた玄米シリアル、高齢者向け介護食について取り組もうとしている。

④社会福祉法人白鳩会（鹿児島県）

白鳩会は、鹿児島県内の南大隅町と鹿児島市で就労移行、A型、B型、生活介護を手掛ける総合事業所で、南大隅町では、お茶、野菜、養豚、ハム・ソーセージ等の本格的な農業生産（45.1ha、1,000養豚）、鹿児島市では、豆腐、ジェラート、菓子作り。

6次加工として、ピーナツ豆腐や豆乳商品、レトルト商品の開発が課題となっており、生産と加工の連携体制構築等の事業計画についてアドバイス。

⑤NPO 法人CCV（Creative Communication Village）

栃木県鹿沼市のB型事業所で、市観光課も入り、農×福×観光×商工で鹿沼のブランドづくりに取り組んでいる。

当面、鹿沼特産の麻を用いたコサージュづくり（工芸品加工の6次産業化は珍しい）から次のステップに移行する予定。

⑥社会福祉法人フォーレスト八尾会おわらの里

富山県八尾市のB型事業所。施設周辺の休耕田（8反）で栽培した野菜を惣菜、弁当として販売し、売り上げ全体の7割を占めている。

今後地域住民と協力し日本有数の桑葉産地だった伝統を生かし桑葉製品を開発したい。

⑦社会福祉法人無門福祉会 生活介護施設むもん（豊田市）

周辺の耕作放棄地（水田）の増加という地域課題に対応するため、農福センターを設け、もっと積極的に農地の貸借を行いたい。そのための職員のモチベーションを高める研修。

⑧社会福祉法人はなさきむら はなさき作業所（兵庫県佐用町）

就労移行、B型事業所、生活介護。これまでブドウ栽培、販売のほか「道の駅ちくさ」の管理を隣の宍粟市から受託している。

ジビエも扱っており、宍粟市の「発酵のふるさと」プロジェクトと連携し、粕漬、醤油漬け製品開発をしてもらい販売したい。

⑩社会福祉法人ゆたか会希望の郷

兵庫県加西市で、障害者、児童、高齢者サービスを実施する事業所で、希望の郷は生活介護と施設入所を担当。

敷地内で多品種栽培をしているが、珍しい野菜や食品加工による付加価値付を検討。

●行政・支援組織へのアドバイス

①上越ワーキングネットワーク

上越市内の障がい者就労共同受注組織で滋賀県の先進事例を講演

②NPO 法人兵庫セルフセンター

兵庫県の農福連携事業の進め方の相談

③NPO サークルの直売所「小さな野菜屋さん ほたる」（鳥取県伯耆町）

鳥取県が日本財団と共同で進めている「工賃3倍増プロジェクト」による施設整備の一環で、米子市隣接の伯耆町で地元の新鮮野菜を主体とした体験型野菜直売所「小さな野菜屋さん ほたる」がスタート、周辺に遊休農地が多いのでできれば自社生産・販売に広げ

てゆきたい

④鳥取県障害者就労事業振興センター「ごきげんマルシェ」

昨年3月からスタートしたイベント、鳥取市で3回、米子市で3回、計6回を予定  
これまでは地元農家の出店も少なく、ほとんど福祉事業所の共同出店であり、出店農家を  
増やし、農家とのコラボにより、農家の生産物を福祉事業所で加工する形を実現したい。

⑤松戸市障害福祉課

松戸の特産は梨、農家支援の意味合いもあり、農家からB級品の梨を購入し、施設でド  
ライフルーツ等へ加工・販売する仕組み等を検討

●「農」を活用した生活介護の場での農業技術指導等

①(株)康臨丸(愛知県美浜町)

精神疾患患者の訪問看護・リハ・デイの事業所。引きこもり患者を外に連れ出すために農  
家から約8反の農地(生産緑地)を借り、農作業(無農薬・ニンニク、大豆等)を実施。

②株式会社サラダ介護グループ・生活介護 Good(愛知県津島市)

名古屋(本社)、津島、海部で、生活デイ、放課後デイ、短期入所、訪問介護を行って  
いる企業グループ

生活介護 Good は、古民家を活用して18歳～60歳前後の利用者をあずかる施設。  
水耕栽培(小松菜等)の手伝いをやってきたが事業継続が難しくなったため、今後は地  
元農業法人の力を借りて露地野菜の加工に乗り出したい。

③NPO 福祉ネット「ナナの家」(狛江市)

障害児の放課後デイサービス事業所で、ケアのためポニー2頭を飼育し、年4回多摩川  
河川敷で乗馬会を実施している。支援者の協力により畜舎は宅地内に設け、近隣農家の  
畑で散歩させているが、手狭なため、新しい農地制度を活用し、採草放牧地として貸借  
したい。(採草放牧地の扱い及び畜舎の建築に注意を要することをアドバイス)

●幅広い社会的弱者支援の市民活動等

①NPO ASU(アクティブ・シニア・ユニオン)の会・八百萬屋(大阪府堺市)

泉北NTをメインフィールドに、エコ循環(食用油)、市民向けカルチャー教室・サロン  
などの活動を行ってきたが、新たにNT周辺の未利用農地を活用しまちかどステーショ  
ン=地域共生ステーション(障害福祉中心の八百萬屋)を立ち上げ。農業技術の指導

②LMO 実行委員会(Love Mind Organization)(大阪府堺市)

愛の心で障がい者の音楽演奏やコンサート開催を支援する活動を行っている市民団体。  
今年の4月、市内で、「レーナマリア」を招聘したコンサートを開催することになってい  
る。(レーナマリアさんは障がい者、ソウルパラリンピックで水泳選手、長野アートパラ  
リンピックではゴスペルシンガーとして活躍。)  
会場周辺で農福連携のマルシェを開催し、障がい者を支援し、売り上げをコンサート開催  
費用の一部に充当。

③NPO 法人 UNE(長岡市)

農園芸作業などを通じ、障害者、高齢者が人間らしく、誇りを持って自立して生活す  
ることを支援する活動を行っている市民団体。その一つとしてし、信濃川河川敷を利用し  
た、福祉市民体験農園 Oasis R(40a、体験農園面積20a、共用農園面積20a 3千円

／年間・4坪)を開設運営しており、関係者の勉強会でソーシャルファームの提唱者である新井利昌氏(埼玉福興社長)が講演。

④活きいきこっとな村(栃木県鹿沼市)

高齢者デイサービス施設和久井亭の休日を使い、ここを拠点として、障がいのある人や、引きこもりの人、地域の人と一緒に、綿花栽培や収穫した綿をつかったアクセサリーの製作販売などを行っている団体。地域包括ケアシステムを担う地域共生ステーション的な拠点づくりを考えている。

●特例子会社

①ふじっこ青空ファーム(滋賀県草津市)

ふじっこ青空ファームは、全国を対象とする給食配食会社である富士産業(社員総数1万7千人)の会社内組織であり、無農薬野菜販売、社員研修受け入れ、社員向け農園運営を行っているが特例子会社化を検討したい。

②新潟市アグリサポートセンター

農家と障がい福祉施設のマッチングや、委託契約のサポートをしている農福連携の中間支援組織。関係者向けの定期セミナーで農業分野の「特例子会社」の先導的取り組みをしているパーソルサンクス(株)の中村淳社長を予定していたがコロナウィルスの影響で中止。

●農家側からの障がい者雇用リクエスト

①高田圃場(上越市)

青年就農者3年目の農家。地域に多く存在している稲作農家の転作畑を受入れ規模拡大による収益拡大を図る上で近所の福祉事業所から施設外就労として障害者を受け入れ

8)学校教育等の食育

●東京都内の小中学校での授業(総合学習、社会科等)

東京都内の小中学校で、江戸東京・伝統野菜研究会の大竹道茂代表を中心にしたグループが江戸東京野菜を起点に、地域の歴史・地理、食育、実地栽培に広がる授業支援に取り組んでいる。

①荒川区立尾久宮前小学校

4年生2クラス56名 荒川区(旧名三河島)の伝統野菜「三河島菜」  
最初は小学校の栄養士さん「地元野菜を食べさせたい」という協力依頼からスタート  
校庭敷地1m×40mの空地利用で栽培、将来は学校給食での利用を考えている。

②北区立稲付中学校

1年生4クラス140名 地元の伝統野菜(滝野川ゴボウ、滝野川ニンジン、滝野川カブ、練馬大根)、中山道との関係等を講義。校庭敷地10㎡で無農薬栽培

③江東区立第二亀戸小学校

4年生3クラス100名 地元伝統野菜(亀戸大根)の歴史、都市農業について講義  
校庭の花壇を利用して栽培、早春に収穫し、晩秋に前の年度の4年生から「命の伝達式」を行い、播種する。

④新宿区立西新宿小学校

5年生2クラス58名 地元伝統野菜(内藤カボチャ、内藤唐辛子)、都市農業の講義  
実地栽培(校庭の花壇7.2㎡)、地元農家との交流

秋の収穫時に新宿御苑レストランのシェフの出前授業を合わせて実施し、収穫野菜を使ったプリン、ピクルスを作り、皆で食した。

⑤練馬区光が丘秋の陽小学校

3年生2クラス67名 地元伝統野菜の練馬大根の話をし、種まきを指導。

以前は、周辺農家の畑を学校農園として借りていたが、農家に相続が発生し、借りることができなくなってしまったため、校庭の花壇を利用している。

なお、隣接して「練馬区立秋の陽公園」があり、公園内の水田では、区内の各校が田植えをしており、同校の5年生ももち米の苗を植えている。

⑥足立区の各小学校での取組

足立区の江戸東京野菜は千住葱。足立区では区農業委員会が全面的にバックアップし、千住葱への理解を深めるため、各小学校の4年生を対象にした授業の中で「命をつなぐ 千住葱栽培授業」として、千住葱の栽培体験を取り入れている。

年間の授業内容は、6月の種の伝達式（+講演）から始まり、その後の播種、定植、翌年2月の収穫、4月の種採取という流れであり、11名の農業委員が夫々3校ずつの小学校を分担して、全体の段取りサポート、資材提供、播種・定植等の指導、圃場管理（1回/週の見回り）を行っている。

以下の学校の「種の伝達式」に合わせた講演者としてアドバイザーを派遣し、地域の地理・地形と歴史、ネギの種類、千住葱の由来、実際の栽培方法を説明・指導した。

イ.保木間小学校 4年生63名「千住ネギ～みんなで育てよう」

ロ.栗原北小学校 4年生107名「千住ネギ～みんなで育てよう」

ハ.千寿双葉小学校 4年生104名「千住ネギ～みんなで育てよう」

ニ.西伊興小学校 4年生99名「千住ネギ～みんなで育てよう」

⑦新宿区立柏木小学校

4年生 1クラス40人 地元伝統野菜の鳴子瓜（真桑瓜の一種）の栽培方法の指導

校庭の一角5㎡で栽培、秋に収穫し栄養教諭の指導にのり下フルーツポンチとして食べる。

⑧昭島市拝島第二小学校

3年生3クラス合同 87名 昭島市の副読本「昭島市の農業」により市の地形、歴史、地元伝統野菜の「拝島ネギ」、都市農業について講義

⑨江東区立第5砂町小学校

4年生3クラス合同授業 120名 地元伝統野菜の「砂村一本ネギ」の栽培・収穫の授業。

校庭の一角（1m×2～3m）を利用して栽培。もともとは栄養教諭が始めた授業。

⑩八王子みなみ野小学校

4年生3クラス113名 江戸東京野菜の話と地元伝統野菜「高倉大根」の栽培収穫の指導

⑪小金井市立東小学校

2年生3クラス 102名 一般的な食育講話「野菜を好きになる秘密」

⑫東京都市大学附属小学校ミクニレッスン

地元食材にこだわりが強い三國清三シェフは、テレビ番組「ようこそ先輩」出演をきっかけに、東京都市大学附属小4年生を対象に、保護者も参観した「ミクニレッスン」を行っている。（年12回、プランターで野菜を育て、日本の食文化や食事のマナー、地域食材について勉強し、最後に収穫した野菜で調理実習と試食を行う。）

アドバイザーは子供たちに、東京都の農業と江戸東京野菜の説明、ベランダのプランターを使って調理用野菜（スイスチャード、サニーレタス、金町こかぶ、安藤小松菜、水菜等）の種まき、水やりの仕方等を指導

#### ●小中学校での授業(新居浜)

教育長が NPO 法人大地といのちの会理事長吉田俊道氏の話聞いて感銘を受けたのが契機となり、その後毎年幾つかの小中学校で吉田氏による講演会を実施。また、それに合わせて新居浜市が主催して市民農園参加者への講演、栽培指導を吉田氏に依頼している。

(市民農園の項に記載)

吉田氏の「生ごみリサイクル・菌ちゃん野菜作り」の提案：

生ごみを使った土づくりをすると元気な有機野菜が育つ。そのことを通じて、汚いと思っていた生ゴミからきれいでおいしい野菜ができる即ち「すべてのものは土から生まれて土に還る」ことを実感してもらおう。

①泉川小学校運営協議会 2年生 99名

②中萩中学校 PTA 3年生 173名

#### ●特別支援学校の農業実習での技術指導

①都立あきる野学園（東京都あきる野市）

高1～高3の身体障害児15名を対象とした学習（自立活動）で、地元伝統野菜である「ノラボウ菜」の栽培、収穫指導

テラスのプランターを利用して栽培している。

②板橋特別支援学校

高1～高3の知的障害児合同の農業班10名を対象に地元伝統野菜である「志村みの早生大根」とブロッコリーを栽培、沢庵づくりも指導。12月の文化祭での販売。

校庭に90㎡の農園と2階建て屋上に75㎡（深さ1m）の農園がある。

もともとは熱心な先生（既に転勤）がはじめたプログラム。

#### ●保育園等

①にじいろ保育園（練馬区）

3歳児～5歳児 60名

給食用野菜の購入や芋ほりイベント等、日頃縁の深い隣地の保育園オーナー農家が園児に自らの畑でカブの収穫体験をさせ（給食に利用）、その後「野菜の話」を講話

以下の2箇所は NPO 法人大地といのちの会理事長吉田俊道氏の話聞いて感銘を受けた園の関係者が企画した講演会である。

②すみれ保育園（男の子育てサークル DADDY 主催）

③難波愛の園幼稚園

園児と保護者 90名

園内にミニ畑、ビオトープ、水田がある。

以下の5箇所は大阪で果物屋を営む山口直克氏の児童向け食育の取組を知った園の関係者からの依頼による事例である。

④相川保育園（みおつくし福祉会）

4歳児、5歳児 58名

葉の付いた果物（3種類のスイカ）を見てもらい、触れさせ、パネルを利用して栽培過程や種類の違い、美味しいスイカの見分け方など説明し、その後実際に切って食べ比べてもらう。また、紙芝居やクイズなど、子供達を楽しませ、果物を身近に感じさせる。低年齢で生産現場に案内するわけにゆかないので、授業終了後に生産者と手紙の交換をしてもらうなどの工夫をしている。

⑤キングダム・キッズ藤井寺

0歳児～2歳児 58名 リンゴ、ブドウ、キウイフルーツをテーマ

⑥千塚こども園

3歳児～5歳児 124名 3種類のリンゴをテーマ

⑦今福南保育所（みおつくし福祉会）

4歳児～5歳児 80名 3種類のイチゴをテーマ

●自治体や民間団体での社会教育

①新宿区環境学習情報センター

新宿区エコリーダー養成講座（年9回、6回以上で終了証）。

今年度のテーマは「食」の一コマで「江戸東京野菜について」由来と学校等での取り組みの実例を紹介し、江戸東京野菜である八王子ショウガ、内藤カボチャ、八丈オクラ、早稲田ミョウガの食べ比べ、試食を行った。

②東京農工大 MOT サロン

MOT は、マネジメント・オブ・テクノロジーの略、工学部系の社会人大学院「技術経営大学院」の卒業生の集まりで、メンバーは300人程度に広がっており、テクノロジーの第一線で活躍している。定期的な勉強会のテーマに「江戸東京野菜」

③男の子育てサークル DADDY（新居浜市上部地区）

DADDY は、子供の遊び場づくり等様々なことをやってきた上部地域の子供を持つ男親のサークル。吉田氏の「生ごみリサイクル・菌ちゃん野菜作り」

④園芸福祉首都圏ネット

園芸福祉首都圏ネットは、日本園芸福祉普及協会の首都圏会員の集まり。会員活動の一つとして「薬膳料理教室」を開催

9)6次産業化

●農業者等による取組（都市部）

①大阪木津卸売市場市場協会

府の奨励する地域農産物（大阪産（もん）野菜）の流通には直売所だけでなく、（仲買への卸売に加え）消費者販売による地域活性化の役割が期待されている地方卸売市場と連携する必要がある。

そのため、市場の中に生産・販売・流通のネットワークづくりを進める体制構築すると共に秋に開催される「なにわ食い倒れマーケット in 木津市場」の一角でセミナーを開催。

②彩誉会

彩誉は岸和田市も後押しするニンジンの地域ブランド（糖度10度以上の奇跡のニンジン）で、彩誉会はその生産者組合。

消費者ニーズに応えた葉つきニンジン栽培、デパート・スーパー等への販路拡大、飲食店への持ち込み、全国農協観光と連携し収穫体験企画、蒲鉾事業者とのコラボをアドバイス。

### ③市川市農業士等協会

農協組合員のリーダーを育成する県認定の資格（農業士）保有者の勉強会で「地域特産の梨の B 級品の付加価値のつけ方」について講義。

現状では B 級品は加工業者に販売しているが、自分たちで加工・販売する方法を模索中。

### ●農業者等による取組(都市周辺)

#### ①福の実マルシェプロジェクト実行委員会（和歌山）

根来寺（和歌山県岩出市）境内で、地元農家、福祉事業所（日向屋）が共同してマルシェ開催。マルシェに出店している生産者農家と加工を担う福祉事業所の協力関係をつくりたい。

#### ②奈良市市民部東部出張所

奈良市郊外田原地区は耕作放棄地増大、体験農園等により都市住民や観光客を誘致し活性化する方策を模索中。

### ●市民サイドでの取組

#### ①暮らしの市実行委員会

名古屋市を中心に朝市マルシェを運営している中心メンバーが集まり、津島市の民パタ（「新しい都市農地制度」掲載）で栽培しているローゼルを使った新商品開発（ローゼルの草木染）の可能性を探る。

#### ②Bridge Wellness(株)（レストラン神田気生根）

神田地域での「とうきょう特産食材使用店」（都認定）である和食レストラン（神田気生根）と神田豊島屋酒造がコラボレーションで江戸東京野菜の粕漬商品のメニュー開発

### 10)耕作放棄地対策

該当なし（奈良市市民部東部出張所の事例、障害者福祉の福祉事業所の取組等は耕作放棄地対策と）という意味合いも持っている。

### 11)入園方式等の農業経営

### ●体験農園の PR、開設指導

#### ①静岡県農業ビジネス課

県内 3 ブロック（県西＝三島市 9 名、県中＝藤枝市 4 名、県東＝磐田市 6 名）で、体験農園について、農業者にレクチャー（体験農園の魅力、開設・運営方法、開設に必要な経費、設備、経費、収益計画）。その後既設の体験農園を指導

#### ②JA マインズ地域振興総合センター

体験農園について、農業者にレクチャー（農業体験農園の仕組み、開設の手順と流れ、作付け計画と契約書、関連税制、貸借円滑化法と活用方法）

#### ③埼玉県春日部農林業振興センター

来年度開設予定の農業者等 5 名に体験農園についてレクチャー

### ●新規就農者へ「市民と連携した農業経営」をアドバイス

#### ①モリノハコ・コドモ舎（高槻市）

市街化区域内農地 2 反（これまでもモリノハコ・コドモ舎として子供や引きこもりの居場所づくりを实践）について緩やかな体験農園方式にステップアップし、市街化調整区域内農地 3 反について大豆栽培をベースに味噌・豆腐等への加工につなげることを提案。

#### ②バンブービレッジファーム（青年就農者）

市街化調整区域で利用権設定により約 1.3 ヘクタールの農地を借り（3～5 年）、新規就農 6 年目を迎え、安定的な労働力の確保、販売力の強化が課題。

ボランティアの来場ルール作り、桜美林大学ゼミとの関係強化、食事交流会・イベントの開催、行政支援を得ることをアドバイス。（町田市市制 60 周年記念の「まちだ〇ごと大作戦 18-20」の助成事業（情報発信、資金援助等）への応募支援。

## 12)地産地消

### ●飲食店・関連企業の取組

#### ①ロケーションリサーチ(株)

錦糸町駅前の商業テナントビル「テルミナ」で飲食店 10 店舗が参加した「江戸東京野菜フェア」（「内藤とうがらし」、「寺島なす」、「滝野川ごぼう」、「奥多摩わさび」等を利用）。イベントとして専門家によるトークショー、「小学生がおすすめ！旬の伝統野菜マルシェ」が開催される。（江東区立第二亀戸小学校の「亀戸大根」、新宿区立西新宿小学校の「内藤かぼちゃ」が出品）

#### ②東京ガス株式会社（都市エネルギー企画部）

食のプロへのガス製品の販売を進める拠点として、東京ガスが東京汐留に設置運営している「厨 BO! SHIODOME」（日本最大級の体験型業務用ショールール）で、飲食店経営者、従業員等を対象に「江戸東京野菜塾」（江戸東京野菜物語と調理デモンストラクション）のセミナーを開催。

#### ③江戸美学研究会

昭島・昭和の森ホテル「四季彩和倶楽部」が寺島ナスを題材に「江戸東京野菜」を学び味わうイベント開催。立川市内の生産農家の畑で説明と収穫体験の後、ホテルで講話と試食。

#### ④PARITALY（小金井市の地元農家から野菜を仕入れ、八百屋と総菜屋（固定販売・移動販売）を運営する個人企業）

小金井市の産業フェスタの一角で地元野菜を出店し、来場者に小金井市の農業と都市農業の役割を説明・啓発

#### ⑤都シティ大阪天王寺

都シティ大阪天王寺主催のランチ賞味会、第 2 回「大阪を食す“冬”大阪食材の饗宴」で難波葱を中心に浪速野菜を紹介

### ●市民団体、グループの取組

#### ①森川喜市商店浦和

江戸東京野菜の普及に向け、「季節の江戸東京野菜を食べる企画」と題して参加者を募り、キッチン付きの会議室で、江戸東京野菜の講義と持ち込まれた江戸東京野菜を自分達で調理、試食するイベント（イベントの最後には野菜マルシェを設営）。

コノカフェ（西荻）、ミナガワビレッジ（表参道）で開催

#### ②ブレーメン（高円寺）

ブレーメンは、着物づくり、フラダンス、朗読等様々な趣味の会に参加する女性の勉強会。江戸東京野菜の講義を聞き、実際の食材を使った料理の食べ比べを味わった。

#### ③向島百花園・ななくさの会

ななくさの会は向島百花園を応援する地元支援者の集まり。地元伝統野菜である「寺島ナス」を試食しながら、かつての寺島村（向島）、隅田村の野菜文化について学習する。



#### ④江戸ソバリエ協会

江戸ソバリエ協会は、「蕎麦は江戸が本場である」との視点に立って、江戸蕎麦の通人（知識、味覚、蕎麦打ち技術）である江戸ソバリエを認定する団体で、10 数年の歴史を有しており、認定された江戸ソバリエは、各地で多くの団体に分かれ活動している。

この協会では江戸蕎麦の薬味である伝統野菜「練馬大根」、「奥多摩山葵」、「千寿葱」を中心にその歴史や効能等を講義した。

#### ⑤鎌倉大根未来研究クラブ

鎌倉大根未来研究クラブは、800 年前の伝説の大根「鎌倉大根」の復活を目指し、農業者や学校農園での生産や販売を広げる活動を行うと共に自らも畑を借りてその栽培を行っているメンバーの集まりで、地域の大根料理専門店「福来鳥」に活動の拠点を置いている。毎年 11 月に「鎌倉大根」ゆかりの佐助稲荷神社に奉納し、福来鳥での収穫祭で勉強会を開き、大根料理を堪能する。

#### ⑥NPO 法人 CS（コミュニティスクール）まちデザイン

CS まちデザインは生活クラブ生協が中心になって作った「食農共育」の人材育成のための市民講座、講師派遣、講師養成等を行う組織で世田谷生活クラブ館にある。市民講座で「江戸東京野菜をご存知ですか。一つ一つの歴史を感じ味わいましょう」を講話

#### ⑦第 4 回すい都大阪伝統食まつり実行委員会

毎年 12 月に天満宮の境内で開催される「すい都大阪伝統食まつり」に向けて、実行委員会（「日本の伝統食を考える会」が中心で天王寺蕪の会、難波葱の会もメンバー）の会員勉強会で「なにわの伝統野菜講座」として天王寺蕪、難波葱を中心に講話

#### ⑧東邦レオ株式会社 あべのハルカスファーム

東邦レオはグリーンインフラの会社で、多角化の一環として全国のビル屋上で「まちなか菜園」を展開（首都圏ではソラドファームシリーズ）、大阪ではあべのハルカス近鉄百貨店屋上で「あべのハルカスファーム」を開設している。

地元阿倍野商工会議所との共催で、一般市民を対象に「あべのハルカスファームで手ぶらで野菜作り体験」を開催することとなり、アドバイザーが浪速伝統野菜の話をし、天王寺蕪、田辺大根、難波葱の栽培を指導

### ●生産者（農業者）が中心の取組

#### ①大阪府南河内農と緑の総合事務所「葱サミット 2020in 大阪」

大阪府南河内農と緑の総合事務所が浪速魚菜の会、難波葱の会等と共同して「葱サミット 2020in 大阪」を開催。（「全国ねぎサミット」は「ねぎ」の魅力を全国消費者に伝えるイベントで、平成 22 年埼玉県深谷市で最初の開催）

会議では、5 種類の伝統的なネギ（九条ネギ、千住ネギ、結埼ネギ、谷田部ネギ、難波葱）についてその由来、文化、相互の関係等が紹介され、江戸東京野菜の大竹氏と浪速野菜の笹井氏がアドバイザーとして参加。

#### ②こがマル女子（小金井市）

若手農業者が中心になり、仲間の農家や農業委員などが加わった小金井市の女性グループ。市民祭りで売り場を設営し、サツマイモなど地元野菜によるマルシェ開催。

入場者に都市農業の役割等を PR。

#### ③NPO ゆうきハートネット（岐阜県白川町）

中山間地域（岐阜県白川町）で、里山を生かした都市住民との交流や CSA 的な農業の実現を目指している新規就農者のグループ。

津島市の民パタ（「新しい都市農地制度」に掲載、農との触れ合いを求める都市住民の活動）との連携の在り方についての WS を開催。

#### ●学生の研究活動

##### ①桜美林大学リベラルアーツ学群「農業とまちづくり」ゼミ

桜美林大学には人文、社会、自然科学横断的なリベラルアーツ学群があり、「農業とまちづくり」ゼミで、単なる農業生産だけでなく、生物多様性、歴史文化の尊重、地域のブランドづくりに広がりのある「江戸東京野菜」をテーマに選定。学生の実践活動として、敷地内の畑で晩成小松菜、品川カブ、亀戸大根を栽培し、学内マルシェで販売している。

##### ②八王子東高校

1 年生の「探検部」（自主研究）は大学、企業、地域関係者と連携し、地域課題と解決方法を考える学科横断的な学習プログラム。テーマの一つとして、地元の伝統野菜「高倉大根」を取り上げ、取り巻く状況を学び、生産拡大の方法等を研究している。

#### ●その他

##### ①東京すし和食調理専門学校

和食調理科、和食研究科があるが、今日の日本食ブームに乗り、約 7 割が留学生。その共通カリキュラムとして、江戸東京野菜についての知識を教授したいと考えており、来年度からのカリキュラム定着に向け、試験的に実施中。（講義と調理を通じて、江戸東京野菜を知ってもらう授業）

##### ②(株)東京ビデオセンター

NHK から「新日本風土記」の編集を請け負っており、同番組に「東京の野菜」を取り上げたいと考えている。その準備として、10 年前に地域で実施した「早稲田ミョウガ捜索隊」の取組を調査すると共に現地を見学、栽培農家からのヒヤリングを行いたい。

### 13)税制

##### ①JA 三重信連（事業サポートセンター）

事業サポートセンターは地域農業振興に向け、中央会、各連合会の共通機構として設置された組織であり、組合員向けの勉強会で相続税等の農地税制を取り上げる。

### 14)農業祭等のイベント

#### ●環境、福祉、文化等に関する市民イベントを盛り上げるための農マルシェ開催

##### ①北摂里山文化保存会

川西・黒川の里山は、現在も炭焼きが残っており、お茶に欠かせない菊炭が生産されるなど日本一の里山と言われている。里山の中には小さな畑が入り組んでおり、保存会には兼業農家も多数参加し、人的にも地理的にも里山と畑が一体化している。

ゆたかな里山を PR する里山まつりの一環でマルシェを開催し、菊炭を使った茶立て、野菜の直売等を計画している。

##### ②浪速お化髪会

2 月 1 日に大阪天王寺区の生國魂神社で行われる伝統行事「浪速お化髪会」（和風ハロウィン）を盛り上げるため、現在農に対する関心が高まっていることを踏まえ、農家と交流し野菜や美味しい加工品が買えるマルシェを開催したい。

③World seed (環境・エコロジー系のイベント開催団体)

秋に花博記念公園で開催される「エコ緑日」(大阪市環境局主催、環境問題の啓発イベント)で地産地消・フェアトレード・オーガニック・社会貢献付き商品など、環境に配慮しているものの販売などを行うマルシェを開催したい。

④Happy Spiral 実行委員会

飲食店の経営者とその仲間の女性グループで、障害者等が健康で前向きな生活を送るために、地産地消やオーガニック食材を摂取しながら繋がりあう社会を目指す活動をしており、障害者支援のマルシェの開催を計画

⑤Step Havest 実行委員会

大阪心齋橋アメリカ村のランドマークである商業ビル、「ビックステップ」で年 2~3 回実施している共同集客イベントの定番。

各テナントから、「安全安心な野菜や加工品を手に入れたい、子どもに農体験をさせたい」という子育てママさんが集まり実行委員会を組織してマルシェを開催している。

⑥NPO 子ども食堂ファンクラブ (枚方市)

「子ども食堂」は母子家庭で子供が餓死したことを契機に全国ではじまった取組。

枚方では地域のコミュニティ形成の目的で広がっており、子ども食堂ファンクラブは各地域での子ども食堂の中間支援組織。

ファンクラブ主催の啓発イベント「子ども食堂だよ！全員集合！」の焼き芋ブースで講演。

●農業祭

①東京都農業祭 (明治神宮)

会場の一角に江戸東京野菜のコーナーを設置し生産農家からの作物を集め展示、来場者への江戸東京野菜の紹介、説明

●その他

①大阪グリグリマルシェ実行委員会

グリグリマルシェは心齋橋の難波神社境内で毎月第 2 土曜日に開催されているマルシェ。マルシェの参加者、農家、協力者等に声をかけ「風景の目で見る～農の時代～環境市民として生きるには」をテーマに講演会を実施。

15)その他

該当なし

次表は、取組とそれに対するアドバイスの内容について、小分類ごとに、類型別課題の一覧表として取りまとめたものである。

大分類	小分類	取組の特徴と課題
(6) まちづくり 18 件	⑮農住調和のまちづくり 6 件 [地区計画等による地域におけるまちづくり計画・事業(農家の資産活用を含む)、農の風景育成、防災協力農地、環境循環]	イ. まちづくり協議会等へのアドバイス (区画整理、宅地開発、賃貸住宅等) 都市農業・都市農地を取り巻く状況が変化し、農地保全の新たな手法が制度化される中で、これを活用したまちづくりの検討が十分進んでいないこと。 ロ. 防災協力農地 その意義、新しい都市農地制度(貸借円滑化法)との関係についての情報提供が十分でないこと。

	<p>⑯新しい都市農地制度 11件 [制度の普及・啓発、地方計画等の策定、都市農地制度]</p>	<p>イ. 農業委員会、JA等での農業者・農業関係者向け説明会 特定生産緑地指定への準備、都市農業振興地方計画策定等について、自治体間で情報量や取組への熱意等に大きな差があること。自治体の担当部局（都市計画部局、農業振興部局等）の協力・連携が十分でないこと。 制度の中で自治体が担当していない相続税関係について、農家への説明に苦慮していること。 ロ. 市民団体が開催する勉強会での新しい都市農業・都市農地制度の説明 関心を持つ市民団体が増えているが、情報提供が十分でないこと。市民団体間での情報交換、情報共有がほとんどなされていないこと。 ハ. 自治体等の具体的な取組へのアドバイス 都市農地センター自治体政策支援室についての情報が行き渡っていないこと。</p>
	<p>⑰公園と緑 1件 [緑の基本計画、農業公園、認定市民緑地等]</p>	<p>イ. 都市農地の位置づけ視点の明確化 自治体の公園・緑担当で都市農地を対象とする視点が定まっていないため、生産緑地の手続きに関する関心にとどまっていること。</p>
(7) 市民利用 15件	<p>⑱市民農園 4件 [農地を利用した市民農園、福祉農園]</p>	<p>イ. 市民農園利用者への情報提供（自然農法、伝統野菜） 土地の貸借にとどまり、農作業に関する技術指導、情報提供が十分でないこと。市民農園利用者は、本来、都市農業振興・都市農地保全の理解者・協力者たるべき都市住民であるが、自治体等の開設者からそうした観点からの情報提供が十分なされていない。 ロ. 市民農園利用者団体への情報提供（開設、管理・運営）</p>
	<p>⑲コミュニティ農園・食農ライフ 11件 [コミュニティ活動としての小菜園（宅地、屋上、空家周辺等を含む）]</p>	<p>イ. 地域のママさん等の野菜づくりグループへの自然農法指導 マルシェや体験農園で知り合った仲間からの自然発生的なグループ形成で、育成のための体制が整備されていない。メンバーの庭や畑を利用するケースがほとんどで、農地や市民農園の有効利用につながっていない。 ロ. 農業公園での農業体験プログラム支援</p>
(8) 教育・福祉 94件	<p>⑳高齢者・生きがいづくり 8件 [デイサービス、園芸療法、高齢者雇用、農園付高齢者施設]</p>	<p>イ. 介護施設等での農作業指導 介護施設の管理・運営者が多忙で、主体的に農作業プログラムを作ることが難しい。農業者やJA等も自分の仕事に忙しく、介護施設の手伝いが出来ない。→園芸福祉士、園芸療法士等の状況を把握する必要がある。 ロ. 「農」の効用の普及・啓発の講演</p>
	<p>21障がい者福祉等 40件 [就労支援、雇用、特別支援学校、生活支援、学童保育等]</p>	<p>イ. 福祉事業所での工賃向上に向けた6次加工に関する経営企画等のアドバイス 厚労省の工賃向上支援事業及び農水省の「農福連携対策」によるマッチングコーディネーター育成事業と重複しないこととしている。夫々の事業は、施設外</p>

		<p>就労等を進めている福祉事業所における具体的工程を補助対象にしているが、本事業によるアドバイザー派遣は、福祉事業所が農福に取組むための問題意識の整理(単なる工賃向上ではなく、地域課題の解決の一翼を担う党)や、農作業の付加価値を向上させるための6次加工等がテーマの中心になっている。</p> <p>施設従業員は目の前にある工賃向上等の課題だけに目を奪われがちであり、地域課題解決型の農福連携事業を進めるために、自治体・JA・地域住民を巻き込んだ取り組みにする必要がある。</p> <p><b>ロ. 行政・支援組織へのアドバイス</b></p> <p>福祉事業所が、県が事業主体となっている厚労省の補助事業や農水省の「農福連携対策」を活用するためには、自治体や中間支援団体の情報提供やコーディネートが重要となるが、地域により取組に温度差がある。</p> <p>農業者側は労働力確保のための施設外就労に重点を置いているが、福祉事業所の能力・施設を考えた時、今後は農業者の生産した作物を福祉事業所が6次加工・ブランド化することで付加価値向上を目指すことが必要。</p> <p><b>ハ. 「農」を活用した生活介護の場での農業技術指導</b></p> <p><b>二. 幅広い社会的弱者支援の市民活動等</b></p> <p>現在の農福連携の枠組みに当てはまらないので、行政支援が難しく、相談窓口もはっきりしないため、夫々の団体が相当の努力を強いられている。</p> <p><b>ホ. 特例子会社</b></p> <p>厚労省職業安定局の所管で、農福連携の枠組みとは異なる。同様に特別支援学校も文科省の所管であり、地域からのポトムアップ目線では障害者就労体系に入るが、情報整理等、施策連携が不十分である。</p> <p><b>ヘ. 農家側からの障害者雇用リクエスト</b></p>
	<p>22学校教育等の食育 46件</p> <p>[学校教育、社会教育、カルチャースクール等(食、農について教えることを主とした取組)]</p>	<p><b>イ. 東京都内の小中学校での授業(総合学習、社会科等)</b></p> <p>江戸東京伝統野菜研究会(大竹代表)の江戸東京野菜の普及・啓発という熱意と学校側で求めている教育内容(地域の歴史・地理・食育・実地栽培)へのニーズが合致し、広がりを見せている。</p> <p>足立区の場合は、更に農業委員会の地元農業振興、地産地消の動機が加わって一層力が入っているのを見ると、他の区市でも農業委員会や自治体の農業担当課を巻き込んだ展開が望まれる。</p> <p>各学校とも栽培用地の確保には苦勞しており、自治体施策に位置付ける中で、農家からの貸借のあっせんや市民農園の一角の利用等を考える必要がある。</p> <p>農業への理解を深めるためには、野菜栽培時の指導助言に地域の農業者の協力を求めることも大切ではないか。</p> <p>各学校とも栽培した野菜の取り扱いに苦勞しているが、栄養教諭の協力を得て学校給食の食材にすることももっと検討されてよい。</p> <p>学童農園の取組をしている学校はこのほかにも数多いと思われるが、その実態を把握し、江戸</p>

		<p>東京伝統野菜研究会の取組のように、栽培実習に加え、学童のコースを踏まえた食育授業を考えることが大切。</p> <p>ロ. 小中学校の授業（新居浜）</p> <p>ハ. 特別支援学校の農業実習での技術指導</p> <p>ニ. 保育園等</p> <p>保育園等で食育授業が実現するのは、偶々好条件が重なった数少ない施設に限られているが、こうした事例を積極的に情報発信し、すそ野を拡大する必要がある。</p> <p>ホ. 自治体や民間団体での社会教育</p> <p>社会人を対象にした学習会等では、一般的な食・農ではなく、事例のように「江戸東京野菜」、「生ごみサケル・菌ちゃん野菜作り」、「薬膳料理教室」のように、より絞り込んだテーマ設定が必要となる。</p> <p>ユニークな講義をするアドバイザーの数を増やすことも必要。</p>
(9) 都市農業 53 件	<p>23 6次産業化 11 件</p> <p>[加工・流通等による付加価値UP、収益UP]</p>	<p>イ. 農業者等による取組（都市部）</p> <p>ロ. 農業者等による取組（都市周辺）</p> <p>農業プロダクトの6次産業化ではなく、農福連携、飲食等都市内流通、マルシェ関連、都市農村交流等に係る取組が対象となった。こうした分野でのアドバイザーの数を増やしつつ、情報の集積を図る必要がある。</p>
	<p>24 耕作放棄地対策 [該当なし]</p>	
	<p>25 入園方式等の農業経営 10 件</p> <p>[農家、農業法人の経営する体験農園、CSA等]</p>	<p>イ. 体験農園のPR、開設指導</p> <p>入園方式の体験農園については、最初の段階で自治体、JAが講習会を開催するのが効果的であり、こうした取組についてもっと情報発信する必要がある。</p> <p>ロ. 新規就農者へ「市民と連携した農業経営」をアドバイス</p> <p>「市民と連携した農業経営」をアドバイスできる専門家は限られており、こうした取組についてもっと情報発信する必要がある。</p> <p>自治体の農業振興施策は既存の農業者や農業生産方式が中心となっており、若手による新しい農業経営の模索（市民を巻き込んだ経営）に対する支援策が考えられて良い。</p>
<p>26 地産地消 32 件</p> <p>[食の安全、伝統野菜普及、マルシェ等の地元農作物消費促進]</p>	<p>イ. 飲食店・関連企業の取組</p> <p>「四季彩和倶楽部」の生産農家での収穫体験を取入れる試みのように、出口（飲食店の料理等）を流通（卸市場、小売店）、生産（農家）に繋げる取組を考える必要がある。</p> <p>ロ. 市民団体、グループの取組</p> <p>東京は江戸東京野菜、大阪は浪速野菜という伝統野菜を学ぶという切り口での取組が殆どとなっているが、先述と同様に、以下に流通、生産の振興につなげてゆくかが課題。</p> <p>市民グループに集まっているのは、伝統野菜を通じて都市農業へのかかわりの深い市民となっているが、特に小売店等の購買行動につなげてゆくためには、より多数の市民への情報提供が図られ</p>	

		<p>る必要がある。</p> <p>ハ. 生産者(農業者)が中心の取組</p> <p>「葱サミット」は伝統野菜の出口を流通、生産につなげる上で有意義な方法である。また、市民祭りに農家が出向いてマルシェを開催するのも意欲的な取組と言える。</p> <p>中山間の農業者と大都市の「農」を楽しむグループの交流も食と生産の連携という意味で興味深い取組。</p> <p>二. 学生の研究活動、その他</p> <p>調理専門学校で伝統野菜のカリキュラムを定着させることは、料理、流通、生産のネットワークの形成につながる有意義な取組と言える。</p>
(10) 税制 その他 15件	27税制 1件 [関連する税制]	J A 事業サポーター
	28農業祭等のイベント 14件 [農業に関する大規模イベント等]	<p>イ. 環境、福祉、文化等に関する市民イベントを盛り上げるための農マルシェの開催</p> <p>我が国でも国連のSDG'sに沿った様々な市民活動が広がっており、都市農業振興・都市農地保全の取組自体もその一つと位置付けられるが、環境、福祉、文化等の活動についてもマルシェを通じてその中に「農」を取り込む方向が示されつつあると言える。</p> <p>大阪で長年農マルシェを運営している若手専門家を中心にしたネットワークで多様な広がりを見せているが、首都圏で同様な取組が上がっていないことをどう考えるか。</p> <p>首都圏でも、こうした志向をもつ専門家をアドバイザーに加えるなどして実態の把握に努める必要がある。</p> <p>ロ. 農業祭その他</p>
	⑮その他	
合計		

## 4. 課題と解決手法等

### (1) 法制度上の課題

#### 1) 今後の取組の基本方向

都市農業振興基本法によりその多様な機能の発揮を図りつつ都市農業を振興すべきこととされ、都市農業振興基本計画において、都市内の都市農地の位置づけが「宅地化すべきもの」から「都市にあるべきもの」に転換され、コンパクトシティ化と連携して制度構築を図るべきことが示された。

また、当面する 2022 年問題への対応を急ぐことが示され、この間、生産緑地法の改正等が行われ、一方で都市農地貸借円滑化法が創設された。

更に、国際的には 2015 年の国連サミットで持続可能な開発目標として SDG's が採択される中、様々な社会的課題解決のための「農」活用の動きが広がっている。

これらを踏まえた、我が国における都市農業振興、都市農地保全に向けた基本的方向は次の通りである。

#### ①生産緑地法等の改正及び都市農地貸借円滑化法の活用（2022 年問題への対応等）

イ 自治体の特定生産緑地指定作業の推進

ロ 都市農地貸借円滑化法の活用

ハ 一般市における生産緑地導入等

#### ②持続可能な社会実現に向けた SDG's に対応した「農」の活用

イ 農地や公園緑地を利用した多様な「農」的空間

ロ 農地以外の農的空間利用への支援

#### ③農地を「都市にあるべきもの」にするための取組

イ 田園住居地域、農地保全地区計画等の都市計画の推進

ロ 公園緑地制度の中での農地保全

ハ 都市農業振興地方計画等の取組

#### 2) アドバイザー派遣制度の役割

上記の方向に沿った自治体、JA、市民団体、グループの活動に対し、重点的にアドバイザー派遣を行う。

また、アドバイザー会議等を通じて、適切な情報提供を行う。

### (2) 地域の抱える課題の類型と解決手法等

#### 1) 新しい都市農地制度の普及・活用等

・自治体や地域によって情報提供等の取組に大きな開きがあり、また、対象が農家や農業団体にとどまっており、市民団体や企業等による活用が進んでいない。

緑施策としての位置づけ、取組もこれからという段階であり、アドバイザー制度や自治体政策支援室など、様々なレベルでの情報提供、働きかけが必要。

#### 2) 市民農園、コミュニティ菜園、高齢者対策

・市民農園に関する自治体等の活動は殆どが菜園の貸借手続き・管理にとどまっており、利用者に対する技術的指導、都市農業への理解の啓発が不十分である。

自治体の農業施策としてのより積極的な位置づけ、活用が望まれる。



- ・都市住民の間には、同好の仲間によるコミュニティ菜園等に対するニーズが強いが、これを受け止める社会システムが出来ていない。(→制度的課題)
  - ・高齢者の生きがいがいづくりでは、介護保険事業における位置づけが不十分であるため、取組が広がっていない。(→制度的課題)
- 園芸療法に係る専門家団体の連携・協力も必要になると思われる。

### 3) 障害者福祉

- ・自治体や中間支援団体の役割が重要であるが、地域によって熱意に大きな開きがある。
- ・福祉事業所の工賃向上、農家の労働力確保というニーズにとどまらず、耕作放棄地対策や地域包括ケアシステム構築といった地域課題解決型の農福連携を目指す必要がある。そのためには、福祉事業所や農家だけでなく、自治体、JA、地元協議会等と連携した取組みを進める必要がある。
- ・福祉事業所利用者の施設外就労というこれまでの農福連携のスキームにとどまらず、農家の作物を福祉事業所が6次加工・ブランド化することを目指す必要がある。
- ・広がりつつある弱者支援の市民活動と積極的に連携する必要がある。(→制度的課題)
- ・特別支援学校や特例子会社を含めたボトムアップ型の情報提供を進める必要がある。

### 4) 学校教育等の食育

- ・東京では江戸東京野菜という切り口、新居浜市では生ごみを使った自然農法という切り口で、小中学生等の食育事業を進めている。  
こうした取組みを更に地産地消や農家との交流につなげるためには東京足立区のように、農業委員会やJAの協力を得たプログラムにすることも考えられて良い。
- ・食育授業の一環で学童農園を開設している学校も多いが、農園用地確保に苦勞しており、農業委員会やJAが仲介して農地貸借を考える必要もある。  
また、難しさはあるが、栄養教諭の協力の下、収穫した野菜を学校給食に利用できれば効果はさらに高まる。
- ・「エディブルシティ」等の映像教材を活用した社会教育の推進を図る必要がある。

### 5) 入園方式等の農業経営

- ・「市民と協力・連携した都市農業経営」を目指す新規就農者が増えているが、自治体やJAの農業振興策は、認定農業者等の既存の農業者、農業生産方式を対象としており、若手による新しい農業方式を支援する仕組みが必要となっている。

### 6) 6次産業化、地産地消、農業祭等のイベント

- ・東京では江戸東京野菜、大阪では浪速野菜と食に関する様々な取り組みが進んでいるが、出口（食、料理）の開拓を、流通、生産（農業者）に以下につなげるのかが課題である。  
大阪の「葱サミット」や「なにわ食い倒れマーケット in 木津市場」はそうした工夫の参考例となる。
- ・国連のSDG'sに沿って、我が国でも環境、福祉、文化等、持続可能な社会を目指した様々な市民イベントが開催されるようになっており、その中で農作物マルシェ、農福マルシェが運営されることも多い。

大阪では長年農マルシェを運営している専門家を中心にしたネットワークが多様な広がりを見せているが、首都圏でも同様な取組を積極的に支援する必要がある。

### **(3) アドバイザー派遣制度の課題**

#### **1) 登録アドバイザーの拡充**

三大都市圏を中心に多くの箇所に、様々なテーマで専門家を派遣しているが、テーマの偏在、地域的偏在も見られる。

今回の分析を踏まえ、こうした偏在を解消するべく、登録アドバイザーを拡充する必要がある。

#### **2) アドバイザー派遣制度PRの充実**

政策として自治体やJAが主導する農業政策や都市政策と異なり、市民団体やグループ等による都市農業の機能発揮の取組みは、たまたま熱心な指導者、中心人物がいたことによりスタート、継続しているものが殆どである。

市民の中でのこうしたリーダーを増やすためには、社会全体としての底上げが必要であり、そのためには、都市農業の機能を発揮した多様な取組が期待される社会になっていることを様々な場面で啓発することが大切である。

#### **3) 地域における様々な課題への解決方法についての情報提供**

昨年と今年の分析の中で、地域での課題の類型化がなされたことから、次のステップとして、夫々の課題の解決に向けてのマニュアル的な基礎情報（知識、技術）を整理し、関係者に配布することが必要である。